

# 人間作業モデル事例検討会

北海道作業行動研究会

村田 和香 北海道大学大学院保健科学研究院  
本家 寿洋 北海道医療大学  
沼田 士嗣 千歳豊友会病院

## 研究会の紹介

作業行動とは人間の行動の側面や種類であり、精神的身体的行為を含みます。つまり、日課や習慣として作られる、あるいは目指す目標となる人間の作業（仕事や遊び・余暇、日常生活活動など）の発達の連続性を持つものです。人間の作業は、人間の生活のほとんどを特徴づけている物理的・社会文化的な環境の中で、仕事、遊びや余暇、日常生活活動を行うことを言います。その概念が人間作業モデル（MOHO）の中核です。

MOHO を適用した作業療法は、クライアント中心の実践、全体的な実践、根拠に基づく実践となるはずで、実践のモデルは、クライアントと環境、そして作業療法士の間で展開される複雑な事象を言葉に表現してくるので、私たちの強力な武器になるはずで、

そこで、本研究会は、事例を通して MOHO を学び、より魅力的な作業療法実践を目指すことを目的としています。そのため、作業行動と MOHO に基づく事例検討会を開催しています（2016 年 1 月現在 180 回となります）。このほか、会員の研究成果の発表や関連する事柄に関する勉強会等をしてきました。月に一度土曜日の午後から北海道大学大学院保健科学研究院で行っています（<http://www.ot-hokudai.info/>）。

## ワークショップの内容

本ワークショップでは、MOHO の事例検討を行います。じっくり検討することにより、MOHO の理解を深めていただきたいと考えておりますので、MOHO を勉強してみたい、とりあえず聞いてみたいという人を歓迎いたします。

チームアプローチとして展開される医療や福祉、保健の中で、生活に焦点をあてたアプローチは重要です。作業療法士の腕の見せ所ですが、頑張りどころでもあります。多くを学べる、確認できる時間にしたいと準備しております。